

第1回さいたま市総合振興計画検討委員会 議事録概要

日 時 平成17年4月21日(木) 10:00~11:10
場 所 さいたま市役所 第6委員会室

1 次第

総合振興計画検討委員会委員委嘱式

- (1) 委嘱状の交付
- (2) 市長挨拶

第1回さいたま市総合振興計画検討委員会

- (1) 委員紹介
- (2) 委員長選出
- (3) 概要説明
- (4) 意見交換
- (5) その他

2 開会にあたって

- ・委員長に、黒川委員が選出された。
- ・委員長職務代理者として、貝山委員が黒川委員長に指名され、承認された。
- ・会議の開催にあたって、本日の会議を公開とすることが確認された。

3 意見交換の概要

意見交換に先立ち、事務局から概要説明があった。

委員長：まず、6月定例議会にかけるのは基本構想だということを確認したい。また、岩槻の概要を説明した資料に関連して質問だが、旧岩槻市からさいたま市へ**8,767**人、さいたま市から旧岩槻市へ**5,383**人の流動が図示されているが、これは日々の流動か、それとも人口の転出入か。日々の流動のように思うが、さいたま市から旧岩槻市へ通う人も、結構たくさんいるという印象を受けた。

事務局：6月定例議会にかけるのは、基本構想である。また、図示されたものは日々の通勤・通学流動である。

委員：将来人口推計の資料について、国立社会保障・人口問題研究所の推計を参考に開発を加味して算出したとの説明があったが、単純に開発を足したのか、それとも何か加味しているのか。

事務局：平成17年4月1日現在の人口をもとに、平成17年10月1日現在（国勢調査の基準日）の人口を基準年の人口として推計している。開発動向としては、大宮西部、浦和東部、岩槻南部、岩槻駅西口、江川、南平野の区画整理事業を加味した。

委員：人口に関連して、岩槻では交流人口によりまちの活性化を図るというのが潮流であった。岩槻区は今後、観光で生きていくことが役割として求められるだろうと思う。旧市時代

は、市域の内外の観光による交流人口を拡大し、現在は **100** 万人の観光入込み数を、**2015** 年に **200** 万人、ちょうど川越の観光入込み数 **400** 万の半分にあたる入込み数を指すと標榜してきた。人と人とのコミュニケーションによる交流は重要なので、交流人口という視点を盛り込んでいくことはできないか。

委員長：交流人口は、将来人口よりも施策のなかで触れていくことだろう。将来人口についていえば、「**132** 万人」とあるが、この「**2** 万」は余計ではないか。将来人口推計はそこまでの精度を持たないので、**130** 万、**135** 万とするか、**130** 万から **135** 万人と幅を持って示すほうが適切だと思う。

委員：岩槻南部地域はどのぐらい加味されているのか。また、議論の進め方についてだが、早い段階で事務局の考えをまとめて案文として示してもらったほうが、効率的に進められると思う。時間と回数があまりないので、事務局に宜しく願いたい。

委員長：議論の進め方について同感だが、ほかの考え方や岩槻のこの特長を忘れずに盛り込んで欲しいという意見を頂けるとありがたい。個人的には、将来都市像の一つである環境共生都市にある記述「首都圏有数の自然資源である見沼田圃や荒川」の部分に関連して、岩槻の斜面緑地は、大変貴重だと思う。リング状になっていて岩槻らしさのある大切なものだ。

委員：先ほどもあったが、具体的に考えられる案文があるといい。将来都市像のところで「見沼の緑と荒川の水」という表現があるが、ここに、元荒川を入れるのはどうか。元荒川は岩槻城の外堀でもあり、岩槻のまちと非常に深い関係がある。併記するのは能がないが、元荒川を入れれば、岩槻市らしさが一つ加わることになる。

委員：現基本構想の審議の際にも、見沼、荒川だけでなく、あれも、これもとなって、収集がつかなくなるのではと思った場面もあった。しかし、具体的であったほうが市民にはわかりやすい。元荒川を加えることについて、私は賛成である。

委員：元荒川について、私も賛成である。ところで、岩槻区は鉄道駅が少ないと聞いたが、多くの方の交通手段はバスなのだろうか。駅がないと人が集まらない。岩槻には資源があるので、交通基盤の整備が重要ではないか。

委員：東西方向は東武野田線があり、岩槻駅と東岩槻駅があるが、放射系の鉄道はない。岩槻はかつて、荒川、隅田川、利根川の水運と、鎌倉街道、御成道のあつまる交通の要衝だった。今から **120** 年前には東北線が敷設されるものと信じていたが、実際には大宮を通ることとなり、以来、鉄道に対する非常に深い思い入れがある。鉄道を抜きにまちづくりを語れない。

委員：個人的には、地下鉄 **7** 号線について反対ではないが、慎重である。今は通すことが目的になってしまっているように思える。将来的には通すのがよいのだろうが、そのことよりも、さいたま市とは異なる歴史や文化資源を持つ岩槻区が、さいたま市との融和をめざすのか、調和を保ちつつ個性にこだわっていくのかということであり、そのことを表現していくことが大切だと思う。岩槻区民が、合併しても何もいいことがないとならないよう、考えていかななくてはいけない。個人的には岩槻城が再建されるとよいと思っている。

委員：人形のまちといわれるが、その前に城下町であり、それから地下鉄 **7** 号の整備などを踏まえて、調和を考えていくという方向だと思う。

委員：私も、岩槻城が再建されればよいと思う。タワーに対抗できる観光の目玉となる。元

荒川のほか、人形、地下鉄 7 号線、城址公園などの資源があり、これらが総合的に調和のとれたものとなっていけばよい。先ほど、岩槻区内には駅が 2 つとの話であったが、鉄道は血管のようなもので、整備されなければ人が流れない。地下鉄 7 号線の延伸は大きな課題だと思う。

委員：今の駅は東西方向を結ぶものであり、これに対して南北となる地下鉄 7 号線は期待が大きい。鉄道が通るとされているところは、過疎が進んでいる地域だ。これらが改善されることも期待できる。先ほどの元荒川についても賛成だ。元荒川と加えることで、歴史的な要素も入ってくると思う。

委員：ライオンズクラブでは、ずっと岩槻城の復元を訴えてきた。合併で再び機運が盛り上がっている。岩槻には人形会館一つなく、こういうものが整備され、また、地下鉄が延伸されれば、合併してよかったなと思う。

委員：現基本構想の「さいたま市らしさを生み出す都市づくり」には、サッカー、見沼田圃、氷川の杜などが掲げられているが、これに岩槻市の要素を羅列して加えても、さいたま市らしさというのは 1 つにならないのではないかと感じる。鉄道の話があったが、南北だけでなく市域の中で人々が動きやすく、市民同士の交流の進むネットワークをつくることを考えるのも必要なことだと思った。

委員長：今日はだいたい、意見が出尽くしたと思うが、いかがか。とくになければ、今日の議論はここまでとしたい。先ほど、早めに案文をという話があったが、そのとおり、出来るだけ早く、今日の議論を踏まえた案文のとりまとめを事務局にお願いしたい。次回会合の前に一度やりとりできる程度のペースで作業ができないか。

事務局：できるだけ急いで、作業します。

委員長：ちょっと忙しいが、6 月議会に諮るため、委員の皆様にもご協力をお願いしたい。では、今日はこれで終了とする。

4 次回会議の開催日

- ・次回検討委員会は平成 17 年 5 月 17 日 10 : 00 とし、会場は別途連絡する。

以上